

アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身のkikuさんが綴るふるさとエッセイ

—あいなん音故地新—

「初志貫徹」

先日、愛媛新聞の方が取材してくださった。11月14日に掲載された小さな記事。400字ほどの記事なのに記者の方は細かいところまで丁寧に聞いてくださって、2時間でノート4ページが真っ黒になつた。その時にこの町で生まれ育って、なぜ音楽を選んで、どんなふうにして今にたどり着いたのか、っていうことを自然と紐解いていく時間になって、いろんなことが蘇って、いろんなことを思い出して、たくさんの人に会いたくなつた。泣けてきた。自分がどれだけの人に支えられてきたか、改めて知ることのできた取材やつた。

私は売れっ子でもないし、特別なものをもつてるわけでもない。ただただ音楽が好きで続けてきた。けど、そうやってきたことでこんな風に小さいけど記事にしてもらえて、これを見て久しぶりに連絡をくれた友達がおる。喜んでくれる家族がおる。ほかにも何もできなくてもほかの誰かを幸せにできなくても自分の大切な人が喜んでくれるならそれだけで十分やと、私は思う。それが、私の音楽やし、それが私の原点。

さて、みなさん、今年も残り僅か。良い年をお迎えください。愛南町に笑顔溢れる一年が訪れますように。

(テノヒラkiku)

あいなん物産探訪 その⑰

「ブロッコリー」

JAえひめ南野菜部会
南宇和支部 支部長

みねお
西川峰男さん



愛南町は県内有数のブロッコリー産地である。といってもピンとくる人は少ないかもしれない。JAえひめ南農協によると平成28年度の出荷数量は171.2t。これは全国で比較するとそれほど多くないが、愛媛県全体の出荷数量が349.6tだから、県内ではおよそ半分のブロッコリーが愛南町で作られていることになる。

10年前からブロッコリー作りに取り組むJAえひめ南野菜部会南宇和支部(会員105人)支部長の西川峰男さんは、1.5haの畑で主力の「おはよう」という品種をはじめ3種類のブロッコリーを育てて

いる。愛南町のブロッコリーは10月から6月まで長期間に渡って収穫できるのが特徴だ。その間、西川さんは8度も作付を行う。

出荷時にも他の産地にはない工夫がある。発泡スチロールに氷と一緒に梱包することで、運送時の生長を抑え、同時に鮮度も保っているのだ。

西川さんの手の中で収穫されたばかりのブロッコリーが朝露をたたえて輝いている。

「鮮度はお墨付きよ！」秋の畑に笑顔がこぼれる。長い収穫期が始まった。



こちらから愛媛CATVの動画がご覧いただけます